

ミッション 麵 POSSIBLE in ローマ 第2弾 報告書 富士宮やきそば学会 2013
MISSION MEN-POSSIBLE IN ROME RETURN BY FUJINOMIYA YAKISOBA-SOCIETY
2013.7.22(MON) – 2013.7.26(FRI)

富士宮やきそば学会（会長：渡邊英彦）は、昨年に引き続きイタリア（ローマ）を訪問し、日本大使館主催の日本文化を現地の人々に紹介するイベント：イゾラ・デ・ラ・チネマに参加した。

今回再度ローマを訪問したのは、河野特命全権大使に富士山の世界文化遺産への登録を報告するとともに、富士宮市長からのメッセージを携えて今後の継続的な支援をお願いするという使命があったことであった。



<河野特命全権大使と日本大使館で>

更に、富士宮市長のメッセージに加えて、田辺静岡市長、後藤静岡商工会議所会頭、※中島セーラー万年筆社長らのメッセージも持参していた為、大使からは大変暖かく迎えていただき、楽しい懇談の場を持つことができたことは大変幸せなことであった。

大使には、世界遺産登録を記念して、「富士ひのきの万年筆（セーラー万年筆製）」をお土産に持参し、富士山と共に地元製品のPRもさせていただいた。また、昨年大使館からご紹介いただいたポンペイ市市長へのメッセージも託した。

大使からも、これを機会に更にネットワークを拡大し、イタリアから日本へのインバウンドにつながるような企画を増やすよう要請を受けるとともに、協力は惜しまないとの力強いお言葉をいただいた。



ローマ市内、テベレ川中洲：チペリーナ島のイベント会場においても「富士宮やきそば」は2日間で参加者約1,200人の方に食べていただいたのだが、大変好評でどうしたらローマで実際に食べることができるかという質問も多く聞かれた。地元の日本レストランからも、具体的な提供方法に関して問い合わせがあった。

<チペリーナ島のイベント舞台にて>

これまでは、「富士宮やきそば」をご当地グルメという素材として富士宮市のプロモーションを世界各地で図ってきたが、富士山が世界文化遺産に登録されることによって、富士山そのものもさることながら、様々な地域素材をコラボレートした発信が可能になるものと思われる。この大きな追い風を、一時のブームで終わらせることなく持続的な地域振興事業につなげるべく、地域の連携を強めることと共に、様々なネットワークを活用して、富士宮市、静岡県（ふじのくに）の発信を引き続き行っていく所存である。

※中島セーラー万年筆社長は元大蔵官僚で河野大使の先輩にあたり、総理秘書官などを務めた